

京都精神保健福祉士協会

きょうと通信 No.117



2016 年 8 月発行

事務局：医療法人つばき医院内
〒602-0895 京都市上京区上御霊町 410
TEL 075 (411) 1011
FAX 075 (411) 1020
e-mail : office@kyo-psw.org
HP : <http://www.kyo-psw.org/>

【近畿 2 府 4 県 PSW 合同研修会の開催のご案内】

日 時： 2016 年 9 月 22 日（木） ※祝日（秋分の日）
10：30～16：30（10：00～受付）
会 場： 大阪府社会福祉会館 5 階（大阪府中央区谷町 7 丁目 4 番 15 号）
プログラム： AM パネルディスカッション「それぞれの枠を超えて WakuWaku」
PM グループワーク
A「何のためにつながるのか」、B「災害支援」、
C「高齢精神障害者支援」、D「就労支援」、E「地域移行」

皆さま、このたび、第 3 回目となります近畿 2 府 4 県 PSW 合同研修会を開催いたします。本研修は、近畿 2 府 4 県における PSW のみなさまを対象とした研修会です。

クライアントを含め、私たちを取り巻く社会状況は日々変化しています。その中で PSW は葛藤を抱え日々悩みながらも、精神保健の向上と精神障害者の福祉の増進という同じ目的をもち奮闘しています。しかし、連携の中でゴールが同じはずでも時に行き違うこともありませんか。その要因にはそれぞれの所属や様々な制度の「枠」なども考えられるのではないのでしょうか。

そこで今回の研修は、「つながり」をキーワードに、相互の背景を理解しあい、それぞれの「枠」を超えることを目指します。

新しい出会いや再会の機会としてぜひお気軽にお越しください。府県協会に所属していない PSW の方にもお知らせしていただければ幸いです。あなたのご参加をお待ちしております。

※参加にあたっては申込が必要です。内容の詳細や申込方法等は、同封の開催案内をご覧ください。（京都精神保健福祉士協会のメール配信を受けている方には、既に [melmaga:698] でお届けさせていただいています。

〔近畿 2 府 4 県 PSW 合同研修会実行委員会〕

.....

【10月例会のご案内】

日 時： 2016年10月8日（土）13:30～16:30

テ ー マ： 「後輩ができたあなたへ

～ スーパービジョン いろはのい ～」

講 師： 医療法人梁風会 こころの医療 たいようの丘ホスピタル 河合 宏氏
(岡山県 日本精神保健福祉士協会認定スーパーバイザー・PSW)

会 場： こどもみらい館 第1研修室 AB

PSWとして迷いながらも経験を重ねていくうちに、いつしか先輩（上司）となったあなた。後輩ができた今、「どう指導したら伝わるの…？」と悩んでいませんか。後輩からの質問や相談に戸惑ったり、対応はあれで良かったのだろうかと反省したり落ち込んだり…。

10月例会ではグループワークや講義からスーパービジョンの基礎を学ぶことで、先輩である私たちに求められる対応について一緒に考え学びます。同じ悩みを多くの仲間が抱えています。ぜひ研修で思いを共有しましょう。明日から出来そうなことのヒントを発見できる例会にしたいと思います。皆様の参加をお待ちしております！

*京都精神保健福祉士協会の会員、もしくは日本精神保健福祉士協会の構成員であれば、無料で参加していただけます。

*10月例会では、グループワークを行う関係で、参加を希望される方には事前の申し込みをお願いしています。①お名前、②ご所属、③PSWの経験年数、④連絡先の電話番号を明記し、mail:kyopsw.study@gmail.com か Fax (075) 252-0055 までお申し込みください。

.....

【第16回記念講演報告】

テーマ： 震災から5年、生活を支えるソーシャルワーカーの視点

～人が回復すること～

日 時：2016年5月22日（日）14:00～16:30

会 場：ハートピア京都（京都府立総合社会福祉会館）大会議室

講 師：松田 聡一郎 氏

（ふくしま心のケアセンター 基幹センター主任相談員）

参加人数：62名（内支部会員6名）

2016年の総会記念講演は、東日本大震災後、ふくしま心のケアセンターの立ち上げとともに支援に携わってこられ、日本精神保健福祉士協会では災害支援体制整備委員をしておられる松田聡一郎氏をお迎えしました。

今回のテーマは、京都でも水害を受けている地域があり「災害対策」はしないと、とは



分かりつつも、毎日の業務に追われ、いざ考えようとすると何から取りくめばいいのかよく分からない、きっかけを掴みたいと思われた方が多かったのではないかと思います。

災害時支援では支援側は目の前の困っている状況を少しでも良くし、困っている人に対し働きかけをするのですが、避難所などで「心のケア」が必要な人がいると周りが知ってしまい過ごしにくくなったケースや、困っている人ほど声をあげられず平時以上に支援しにくい状況があったこと。災害時だから仕方ない…という状況等があり、その事例から PSW が要支援者の生活を支え回復していく過程で大切にすべき視点を説明してくださいました。話を聴きながら自分だったらどうしていただろうか、ただただ動いてしまうのではないかと、焦りとも恥ずかしさとも言える気持ちになりました。

災害ソーシャルワークは、私たちが実践しているソーシャルワークに似ていると松田氏はおっしゃっています。「日常から丁寧に関わり寄り添う」「自分の職域だけでなく他の職域や地域との繋がりを大切にする」「違和感や気づきを大切にする」「どんな状況でも要支援者の権利が守られるかを考える」等々は、普段の業務や私たちが大事にしていることと多く重なっていると気づかされます。

松田氏の「平時から準備できていないことは災害時にもできない」「平時の活動の積み重ねが災害時に生きる」という締めくくりの言葉は印象に残りました。「備災」の視点で今の業務からどんな課題が浮かぶかを考え見直していくこと。会場にいたみんなが明日から意識してみようと思えた時間になったと思います。ありがとうございました。



(報告：松井 玲子)

【6月例会報告 実習検討委員会】

テーマ：**これからの精神保健福祉士実習を考える**

～新カリキュラム実習の課題や展望を語る

日 時：2016年6月4日（土）14:00～16:45

場 所：ウィングス京都 2階 セミナー室B

内 容：第1部「2014年実習アンケート調査の概要報告」藤井 弘 さん（なごやか）

第2部「新カリキュラム実習の課題や展望を語る」

ミニシンポジウム&グループワーク

入江 泰 さん（京都マック）、森田 倫子 さん（北山病院）、

斉藤 徹 さん（つばき医院）、杉原 努 さん（京都文教大学）、

進行：泉 洋一 さん（佛教大学）

参加者：23名

第1部では、2014年7月「精神保健福祉援助現場実習についてのアンケート報告書」をもとに調査の概要を報告。(1) 調査目的：実習場所の複数化や期間短縮への懸念をもとに、2ヶ所の実習での連携のあり方や効果的な実習プログラムなどの把握。(2) 調査結果：多様な観点から本調査で得られた知見の報告。①実習生に取得してほしい6つの重要項目(8項目)、②実習生に伝えにくい点など、③実習生の気づきを深めるためのプログラムの工夫や振り返りの機会が重要であること、などが報告された。

また、第2部ミニシンポジウムでは、医療機関と事業所、養成校の立場から4名のPSWによる報告と問題提起。実習時間が短縮されたという時間的制約の中で、ともすれば情報過多になりがちであることや、実習生に気づきを促すための様々な指導上の工夫、そして個別性の高い実習指導の実践などが報告された。グループワークでは、参加者相互の活発な意見交流がみられ、最後のグループ報告によって協議内容を共有する機会を持つことができた。

アンケート集計では、参加者の多くが新カリキュラム実習への対応に不安を抱いており、例会に参加することで、他の実習指導者の報告を聞き、グループワークでお互いの気持ちをシェアすることで気が楽になったとの記述や、他の事業所や医療機関での実習指導の様子や工夫がわかって、とても参考になったとの感想が寄せられた。

.....

【ソーシャルワーカーデイ】

7月18日(祝)はソーシャルワーカーデイ。今年も京都社会福祉士会、京都医療ソーシャルワーカー協会、当協会の3団体で「ソーシャルワーカー」を多くの人々に知ってもらうための活動を行いました。今回は「イオンモール京都五条」の店内をお借りして、チラシの配布、相談会を実施、4名の方が買い物の前後に相談コーナーに立ち寄られ、チラシは約250名の方に配布しました。

当日は連休の最終日で、親子連れの買い物客でにぎわう中、チラシをわたしても受け取ってもらえるとは限らずなかなか苦戦しましたが、「今後何かの折りにソーシャルワーカーに出会うことがあるかもしれない方」「もしかしたら未来のソーシャルワーカーか？」などさまざまな思いを馳せながらチラシを配布しました。少しでも多くの市民の方にソーシャルワーカーを知ってもらう機会になったのであれば幸いです。

例年、京都社会福祉士会の企画に相乗りする形で活動してきましたが、今年からはじめて3団体が集まって一緒に企画をしました。今後も京都にある同じソーシャルワーカーの専門職能団体として何らかの活動を共同して行っていきたいと考えております。ご意見などあればぜひ事務局までお寄せください。また企画への参加もよろしくお願いします。

.....

【リレー職場紹介】



京P子ちゃん

今号は
京都市北部障害者地域生活支援センター
「きらリンク」小野 紀代子さん です。

Q1.入職したきっかけと職場のことを教えてください!!

きらリンクは、京都市北部圏域（北区・左京区）にお住まいで障害のある方・その家族・支援者を対象とする相談機関です。場所は白川通今出川の交差点から南へ5分程歩いたところで、周辺では外国人や修学旅行の中学生等、観光客の姿も多く見かけます。

事業所では、計画相談支援と、一般的な相談に応じる京都市からの委託事業とを併せて実施しています。また、身体障害のある方を対象として開所（2000年）した経緯から、肢体不自由や言語障害のために意思疎通の手段が制限される方々のためにIT技術を活用したコミュニケーション支援の委託事業も担っています。京都市障害者地域自立支援協議会にまつわる事業も多数運営しています。

私は 2015 年の春から相談員として勤務しています。障害の種別を問わず利用者の生活を支え、行政やサービス提供の事業所と連携して個別の課題ならびに社会的課題の解決を図るという支援センターでの業務に魅力を感じ入職しました。

Q2.仕事をするなかでのやりがい、悩み、嬉しいことなどを教えてください!!

それまでは精神保健福祉の分野で働いていましたので、三障害全般にわたる相談支援業務に就くことが決まったとき、(未経験である)身体・知的障害や難病のある方への対応をうまくできるのかという重圧感がありました。しかし上司から「同じ障害名・病名を持っていても、その人の抱えている悩みや問題はそれぞれ違う」との言葉を受け、苦手だとしり込みするのも、経験と勘に頼ってしまうことも、好ましくないと気づきました。

言葉で発信することが困難な人や、精神状態が不安定で毎日連絡を入れてくる人もおり、利用者へのかかわり方に試行錯誤する毎日です。事業所内で、また関係機関の担当者とも知恵を出し合い「今、ここで」できることを進めています。

また、計画相談を手掛けるようになり、利用者の思いや願いを文書化し「共有できた」「通じ合えた」と感じる瞬間は、私自身が励まされます。モニタリングは定期的に利用者の考え・意見を受けとめ、状況を評価して支援の在り方を描き、必要時には修正もしながら目標達成までの行程を形づくっていく作業です。継続していくうちに、利用者の思いがけない変化にやりがいを感じることも多いです。

Q3.最後に…、仕事を通じて PSW として考えていることはどんなことですか？

相談業務を含む対人援助は正解のない仕事ですが、困り事の解決・解消に向けて最善の結果のために動き続けていくことが私たちの役割だと思っています。



トピックス

生活保護基準引き下げ違憲訴訟ニュース No.5

第4回口頭弁論は4月28日に京都地裁で開かれた。傍聴された内田 PSW の報告書をもとに概況の報告。

冒頭、原告Aさん(69)の意見陳述。Aさんの今に至る人生は苦労と貧困の連続。中卒後の集団就職と夜間高校での勉学。京都へ移住後、重労働の中で体調を崩し、脊柱管狭窄症による歩行困難や体幹機能障害の認定。39歳から生活保護を受給し、頸椎や腰椎など4度の手術、その後も脳出血と脳梗塞を経験し、左半身に軽い麻痺が残る。

妻も骨髄腫や変形股関節症による歩行困難を抱え、手術と療養の日々。夫妻はかろうじての杖歩行、お互いを支えながら生きている。保護費の引き下げで月額6,000円が減額され、苦渋の節約生活を強いられている。

最後に「私たち夫婦が、憲法25条で保障されている健康で文化的な生活をしているとは、到底思えません。ごく普通の生活ができればいいのであり、贅沢がしたいのではありません。将来に明るい希望が持てる判決を」と結ばれた。

続いて原告弁護団の民谷氏の意見陳述。保護基準の引き下げが違法である理由の補充説明。原告の主張は次の2点。①保護基準の引き下げは、水準均衡方式の要求する慎重な手続きを踏んでおらず、手続き違反があり、他事考慮をしている点。②被告の「平成19年報告書の検証結果によって既に生活扶助基準を引き下げるべき状況にあったのを据え置いてきたので、その後の物価動向を勘案して引き下げた」という主張が誤っている点。

水準均衡方式では、専門家による検証の手続きを経て、慎重に基準設定がされること。そして、社会・援護局長の私的諮問機関による平成19年報告書の矛盾と誤りを指摘された民谷弁護士の主張は、誠に理に適う内容であった。

第6回口頭弁論(7/7)は、授業と重なり出席できなかったため、裁判資料をもとに通信で報告の予定。第7回口頭弁論は10月11日(火)13時30分～京都地裁にて。詳細は泉まで。(Tel 075-491-2141: 佛教大学)

.....

【2016年度 第1回役員会議事概要報告】

日時 2016年5月18日(水) 19:00～21:40

場所 アステップむろまち

出席) 泉 大石 大塚 斉藤 下村 知名 西村 平山 東森 松本 宮崎

欠席) 橋本 司会) 松本 書記) 斉藤

※詳細は下記 URL よりご確認ください。

<http://www.kyo-psw.org/member/hokoku/gijigaiyo201601th.pdf>

【事務局より】

会員の動向

○入会

立岡 早希さん 所属) 就労継続支援 B 型事業所 ジョイント・ほっと

田中 裕崇さん 所属) 医療法人三幸会 第 2 北山病院 相談室

○退会

上利 博美さん 所属) 医療法人光樹会 相談支援事業所 しぼふぁーれ

ほっと一息コーナー

4 月に子どもが小学生になったので、子どもと一緒にプランターで野菜を育ててみることにしました。今年は最初なので、比較的作りやすいと言われているトマトときゅうりにチャレンジしてみました。



きゅうりはけっこう早く実がつき、スーパーで売っているものより大きなものが 5,6 本できました。トマトも少しずつ実がつき、こちらも売っているものと変わらないくらいのものでしました。

味はというと、きゅうりは市販のものと変わりないくらいで、トマトはむしろ甘みが強いと感じるくらいでした。自作のものなので、思い込みもあるとは思いますが…。きゅうりはほぼ収穫を終えたのですが、トマトはまだ写真のようにいくつか未収穫のものが残っています。

今年は豊作でうまくいったので、来年はもっと別のものにもチャレンジしたいですね。

(中田 亮太)

【編集後記】

7 月に入ってさっそくプールに行ってきたのですが、日焼け対策を怠ったので肩から背中にかけてのエリアがえらいことに…。あまりに痛みとかゆみがひどかったので、皮膚科にお世話になってきました。(中田亮太)

先日ひさびさに高熱をともなう風邪をひきました。夏風邪は長引くと聞きますが、例にもれず私の風邪も長引いています。毎日暑いですが、身体を冷やしすぎず体調管理に気を付けたいですね。(平野美菜)